



2015年7月28日

ブラジル:不況で先送りされるインフラ投資

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

ブラジルの不況が深まっている。6月の失業率は6.9%に上昇、昨年6月(4.8%)を2.1ポイントも上回っている。その結果、消費者マインドも悪化している。消費者信頼感指数は7月、82ポイントに低下(2005年9月を100とした指数)。リーマンショック時の底(2008年12月:94.9)を12.9ポイント下回っており、統計開始(2005年)以来の最低を更新中である。年後半は、資源価格の低下が更に追い討ちをかける。2015年の成長率は-2.0%程度か、或いは更に下回る低成長になりそうだ。

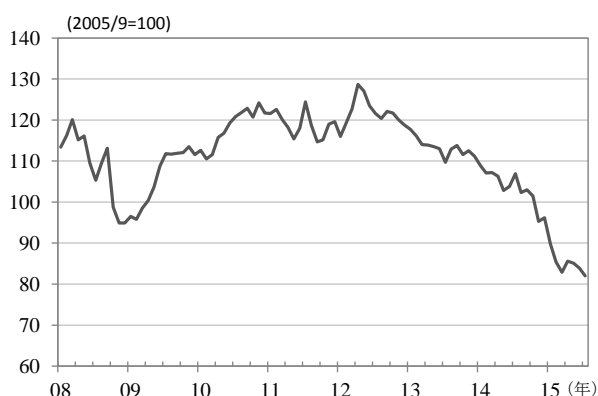
不況により財政は悪化しており、政府は緊縮政策を余儀なくされている。ブラジル国債が投資適格級を維持するには、財政再建が必須であるからだ。政府は最近、2015年の基礎的収支の見通しをGDP比0.15%に引き下げたが(従来は1.1%)、この目標を達成するためにさえ追加削減が必要となっていた。

しかし、緊縮策は短期的にはやむを得ない措置であっても、長期的な問題を含む。緊縮を実施するに当たり、削りやすい投資的経費に削減がしわ寄せされてしまい、将来の成長の芽を摘むことになりかねないからだ。

右図はブラジルの交通インフラ(道路、空港、鉄道、港湾)への投資額である。2015年の計画は前年比8割減で、2005年並みの金額になっている。

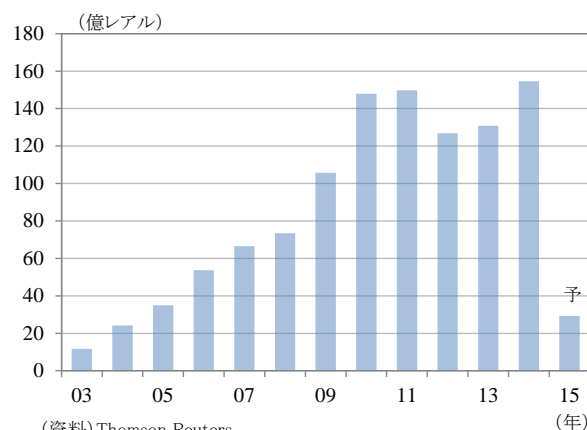
劣悪なインフラは「ブラジル・コスト」の一因である。国内物流コストを押し上げ、ブラジル製品のコスト高をもたらしているからだ。投資比率(固定資本投資/GDP)がただでさえ低く引き上げが求められているブラジルで、投資削減のため更に投資比率が低下していく。不況はブラジルの将来にも禍根を残すことになる。

消費者信頼感



(資料) Thomson Reuters

ブラジルの交通インフラ投資額



(資料) Thomson Reuters

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。